自立活動の個別の指導計画の作成のための流れ図（中学部）作成日

|  |  |
| --- | --- |
| **氏名** |  |
| **生年月日** |  |
| **学部・学年** | 中学部・学年 |
| **障害名** |  |
| **学習状況** | 国語○段階　社会○段階　数学○段階　理科○段階　音楽○段階　美術○段階保健体育○段階　職業・家庭○段階　外国語○段階 |
| **指導の概要** |  |
| **作成者** |  |

|  |
| --- |
|  |
| **実態①　障害の状態、学習状況、発達や経験の程度、興味・関心、長所や得意なこと等、指導に生かされる情報** |
|  |
| **実態②　実態を６区分27項目で整理** |
| **１健康の保持** | **２心理的な安定** | **３人間関係の形成** | **４環境の把握** | **５身体の動き** | **６コミュニケーション** |
|  |  |  |  |  |  |
|  |
| **実態③　学習上又は生活上の困難** |
|  |
| **実態④　なってほしい将来の姿** |
|  |
| **実態把握から指導目標を設定するに至る判断の根拠** |

Ver.2.1

|  |
| --- |
| **目標** |

|  |  |
| --- | --- |
| **指導内容①** | 自立活動の指導項目１健康の保持　[ ] 生活リズム　　　[ ] 生活管理　　　　[ ] 身体各部の理解[ ] 特性理解と調整　[ ] 健康状態の維持　２心理的な安定　[ ] 情緒の安定　　　[ ] 状況の理解と変化への対応　[ ] 困難を改善克服する意欲３人間関係の形成　[ ] 関わりの基礎　　[ ] 意図・感情の理解　[ ] 自己理解と行動の調整[ ] 集団参加の基礎４環境の把握　[ ] 感覚の活用　　　[ ] 感覚・認知の理解　[ ] 代行手段の活用　　　　　　　　　[ ] 状況把握と行動　[ ] 概念の形成５身体の動き　[ ] 動きの基本技能　[ ] 補助的手段　　　[ ] 基本動作　　　　　　　　　[ ] 移動能力　　　　[ ] 円滑な遂行６コミュニケーション　[ ] 基本的技能　　　[ ] 受容と表出　　　[ ] 形成と活用　　　　　　　　　[ ] 手段の選択・活用　[ ] 状況に応じた対応 |
| 指導場面　　[ ] 時間における指導　　[ ] 教育活動全体 |
| **指導内容②** | 自立活動の指導項目１健康の保持　[ ] 生活リズム　　　[ ] 生活管理　　　　[ ] 身体各部の理解[ ] 特性理解と調整　[ ] 健康状態の維持　２心理的な安定　[ ] 情緒の安定　　　[ ] 状況の理解と変化への対応　[ ] 困難を改善克服する意欲３人間関係の形成　[ ] 関わりの基礎　　[ ] 意図・感情の理解　[ ] 自己理解と行動の調整[ ] 集団参加の基礎４環境の把握　[ ] 感覚の活用　　　[ ] 感覚・認知の理解　[ ] 代行手段の活用　　　　　　　　　[ ] 状況把握と行動　[ ] 概念の形成５身体の動き　[ ] 動きの基本技能　[ ] 補助的手段　　　[ ] 基本動作　　　　　　　　　[ ] 移動能力　　　　[ ] 円滑な遂行６コミュニケーション　[ ] 基本的技能　　　[ ] 受容と表出　　　[ ] 形成と活用　　　　　　　　　[ ] 手段の選択・活用　[ ] 状況に応じた対応 |
| 指導場面　　[ ] 時間における指導　　[ ] 教育活動全体 |
| **指導内容③** | 自立活動の指導項目１健康の保持　[ ] 生活リズム　　　[ ] 生活管理　　　　[ ] 身体各部の理解[ ] 特性理解と調整　[ ] 健康状態の維持　２心理的な安定　[ ] 情緒の安定　　　[ ] 状況の理解と変化への対応　[ ] 困難を改善克服する意欲３人間関係の形成　[ ] 関わりの基礎　　[ ] 意図・感情の理解　[ ] 自己理解と行動の調整[ ] 集団参加の基礎４環境の把握　[ ] 感覚の活用　　　[ ] 感覚・認知の理解　[ ] 代行手段の活用　　　　　　　　　[ ] 状況把握と行動　[ ] 概念の形成５身体の動き　[ ] 動きの基本技能　[ ] 補助的手段　　　[ ] 基本動作　　　　　　　　　[ ] 移動能力　　　　[ ] 円滑な遂行６コミュニケーション　[ ] 基本的技能　　　[ ] 受容と表出　　　[ ] 形成と活用　　　　　　　　　[ ] 手段の選択・活用　[ ] 状況に応じた対応 |
| 指導場面　　[ ] 時間における指導　　[ ] 教育活動全体 |

|  |
| --- |
| **変容** |

※流れ図に沿って立てた自立活動の目標は、「個別の指導計画」の目標欄にご記入ください。指導内容の詳細が別途必要な場合は、担任の先生のご判断で作成することもできます。前期・後期で見直すのが基本ですが、子どもの変容に応じて、自立活動支援担当の先生と相談の上、適宜見直してください。